

※会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。 ※カタログに記載された内容および製品の仕様は改良のため、予告なしに変更することがあります。
 ※本カタログの記載内容は2013年4月現在のものです。 ©2013 OBIC BUSINESS CONSULTANTS CO.,LTD.ALL rights reserved.

グループ子会社の統一会計基盤に奉行V ERPを導入 子会社での安定運用と コストメリットを実現

奉行V ERP 導入モジュール

- ▶ 勘定奉行V ERP
- ▶ 固定資産奉行V ERP

先商技術で未来を創る
 株式会社
オービックビジネスコンサルタント
 URL <http://www.obc.co.jp>

| | |
|---|--------------------------------------|
| 東京 〒163-6032 新宿区西新宿6-8-1住友不動産新宿オークタワー32F | TEL 03-3342-1880(代) FAX 03-3342-1874 |
| 札幌 〒060-0003 札幌市中央区北三条西4-1-1 日本生命札幌ビル6F | TEL 011-221-8850(代) FAX 011-221-7310 |
| 仙台 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3 鹿島広業ビル7F | TEL 022-215-7550(代) FAX 022-215-7558 |
| 関東 〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町1-9-6 大宮センタービル7F | TEL 048-657-3426(代) FAX 048-645-2424 |
| 横浜 〒220-0004 横浜市区北幸1-11-15 横浜STビル7F | TEL 045-322-0922(代) FAX 045-322-3648 |
| 静岡 〒420-0851 静岡市葵区黒金町11-7 三井生命静岡駅前ビル4F | TEL 054-254-5966(代) FAX 054-254-5933 |
| 金沢 〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス金沢8F | TEL 076-265-5411(代) FAX 076-265-7068 |
| 名古屋 〒460-0003 名古屋市中区錦1-16-7 NORE伏見ビル7F | TEL 052-204-3350(代) FAX 052-204-3354 |
| 大阪 〒530-0018 大阪市北区小松原町2-4 大阪富国生命ビル23F | TEL 06-6367-1101(代) FAX 06-6367-1102 |
| 広島 〒730-0032 広島市中区立町2-27 NBF広島立町ビル4F | TEL 082-544-2430(代) FAX 082-541-2431 |
| 福岡 〒812-0039 福岡市博多区冷泉町2-1 博多紙園M-SQUARE 9F | TEL 092-263-6091(代) FAX 092-263-6099 |

販売代理店

先商技術で未来を創る
 株式会社
オービックビジネスコンサルタント

奉行V ERP 導入事例

JVCケンウッドグループ

グループ子会社の統一会計基盤に奉行V ERPを導入

子会社での安定運用とコストメリットを実現

課題

- ①グループ子会社が独立運用できる統一の会計基盤が必要となった。
- ②システムの運用コスト削減を目指した。

効果

- ①奉行V ERPの導入により、グループ子会社での安定した独立運用を実現。
- ②奉行V ERPの導入により、システム運用コストを大幅に削減。

▶ 導入前の課題

ITインフラの統合で
合理化とシナジー強化を目指す

株式会社JVCケンウッドは、カーエレクトロニクスや無線機器、音響機器、映像・音楽ソフトなど、日本ビクターとケンウッド、両ブランドの強みを柱とした事業を展開している。同社の持つブランドは幅広い世代にファンを持ち、その高い品質と性能を誇る製品は長く愛され続けてきた。

2008年の経営統合後は、グループのシナジー創出に向けた抜本的な構造改革が行われ、事業や組織の整理が進められた。しかし、ITインフラについては旧グループの事業体に紐づいたものが重複して残っており、早急に合理化を図る必要があった。

財務戦略部 統括マネジャーの橋木(うつき)節次氏は当時の状況について次のように振り返る。「経営統合後は、まだ旧グループの事業体(ビクター、ケンウッド)に基づくそれぞれのシステムで決算が行われていました。そのため、JVCケンウッドグループとしての連結数字を把握するには、非常に非効率な手集計の作業が必要となっていました。まずは連結決算を合理化するため、日本ビクターとケンウッドの会計システムの一体化を早急に進めることになりました。それに伴い、日本ビクターの従来システムを使用していたビクターグループ子会社においても、統一して利用

できる新たな会計基盤へのニーズが不可避免的に発生したのです。」

▶ 選定のポイント

コスト面でのメリット
運用のしやすさとサポート体制を重視

グループ子会社に向けた新たな会計システムを選定するにあたり、まず候補に挙がったのがケンウッド子会社で運用実績のあった奉行シリーズであった。導入対象会社の仕訳件数、固定資産物件数等を調査し、奉行製品の持つ機能が今回導入の条件にフィットするかチェックを行った。特に、経営統合当時の外部環境や業況が厳しい中で、コスト面でメリットが出せるかどうかは重要な選定ポイントであったと言う。

また、従来のシステムでは、マスターのメンテナンスや締め処理など、親会社が運用の一部を肩代わりしていたが、新システムでは子会社が独立して業務運用を行うことを目指した。そのため、運用のしやすさやサポート体制も重視すべきポイントであった。

「日本ビクターとケンウッドが一体化して導入したシステムは規模が大きく、システム特性から考えても傘下のグループ子会社で統一

利用するメリットがありませんでした。コストを抑えながらも、子会社の経理業務が問題なく回り、月次の会計数字を把握し決算書が出せるなど、基本的なことはきっちりできるもの。しかも導入には極力負荷がかからず、導入後も運用が容易で子会社が独立して安定的に使えるシステム。そういった観点から選択すると、国内ではOBCの提供している奉行V ERPが最適なソリューションと考えました。」(橋木氏)

こうして2010年9月、JVCケンウッドグループでは子会社に向けた共通の会計基盤として奉行V ERPの導入を決定した。

▶ システム概要

子会社14社への短期導入を実現

2011年5月より、子会社14社への奉行V ERPの導入プロジェクトを本格的に開始した。導入範囲を会計・固定資産管理とし、各社のシステム構成に基づいた導入スケジュールを作成、



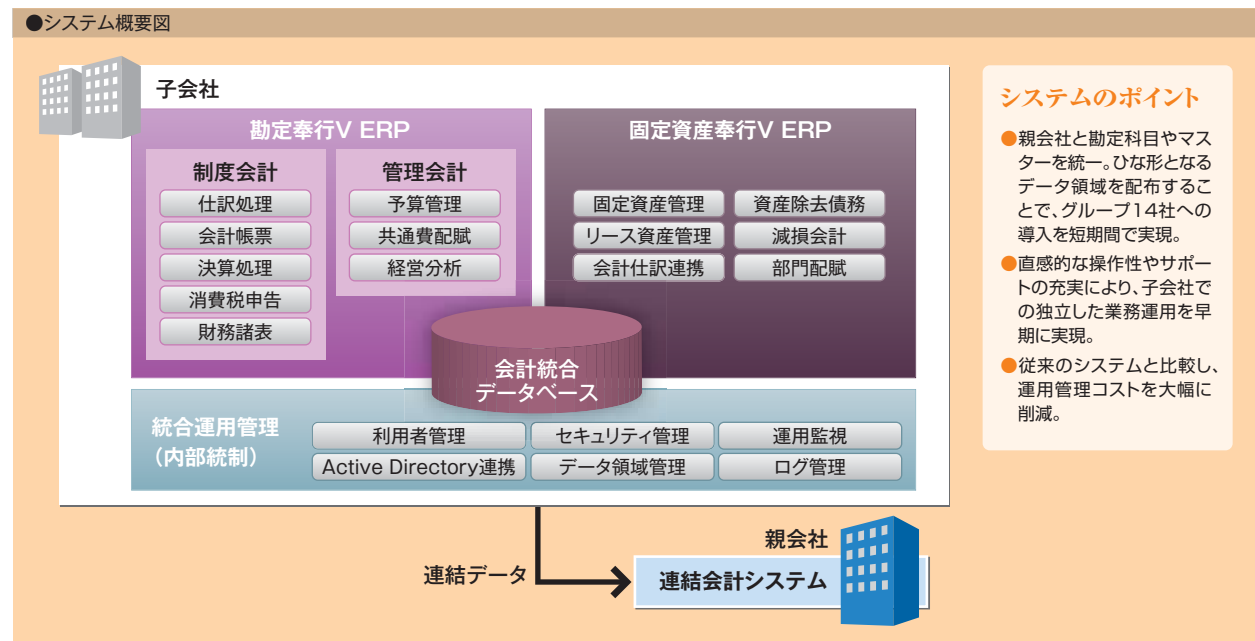
財務戦略部 経理統括部 企画担当 統括マネジャー 橋木 節次氏



IT統括部 アプリケーション担当 堀 哲也氏

■株式会社 JVCケンウッド
所在地… 神奈川県横浜市神奈川区 上場… 東京証券取引所市場第一部
売上高… 3,209億円(連結) 社員数… 13,270人(連結)
事業概要… カーエレクトロニクス事業、業務用システム事業、ホーム&モバイルエレクトロニクス事業、エンタテインメント事業等の運営および、これら事業を営む会社の株式または持分を保有することによる、当該会社の事業活動の管理

株式会社JVCケンウッドは、日本ビクター株式会社と株式会社ケンウッドが、2008年10月の経営統合を経て、2011年10月に合併して誕生しました。JVCケンウッドは、映像・音響・無線技術、音楽・映像ソフトをコアコンピタンスに、カーエレクトロニクス、業務用システム、ホーム&モバイルエレクトロニクス、エンタテインメントの4事業を推進しています。感動と安心を創る世界の専門メーカーとして、利益ある成長を実現するとともに、ひろく社会から信頼される企業グループを目指します。



10月からの本稼働に向け、約4か月という短期間で、セットアップから集合研修、データ移行までを集中的に進めた。

限られた短い期間でシステム移行を進めることができた要因について、プロジェクトの推進を担った、IT統括部の堀哲也氏は次のように話す。「会計システムと固定資産管理システムとでフェーズを分けながら、子会社14社への導入を一齐にスタートしました。集合研修では各社の導入スケジュールや手順を配布し、作業の進め方を細かくお伝えしました。勘定科目やマスターは親会社の設定と同期を取って統一することとし、導入事務局でひな形となるデータ領域を一括して作成し配布するなど、少しでも子会社の作業負担を減らすように工夫しました。子会社側では、残高移行データの作成や確認などの個別作業に注力頂けた事が、導入期間の短縮に繋がったのだと思います。」



財務戦略部 経理統括部 企画担当 坂口 真由美氏

▶ 導入効果

運用コストで桁がひとつ違う効果
子会社の安定した独立運用を実現

2011年10月、グループ各社で奉行V ERPが本稼働し、各子会社での独立運用が開始した。財務戦略部 経理統括部 坂口真由美氏は、奉行V ERPの使いやすさを次のように評価する。

「期の途中からの稼働でしたので、データ移行などを細かくお伝えしました。勘定科目やマスターは親会社の設定と同期を取って統一することとし、導入事務局でひな形となるデータ領域を一括して作成し配布するなど、少しでも子会社の作業負担を減らすように工夫しました。子会社側では、残高移行データの作成や確認などの個別作業に注力頂けた事が、導入期間の短縮に繋がったのだと思います。」

また、コスト面では目に見える効果が現れていると橋木氏は話す。

「システムの運用コストでは、桁がひとつ違うぐらいのメリットが出ています。コスト削減効果は想定通りと言えるのではないのでしょうか。」

導入にあたって子会社から不安の声が上がっていた、子会社毎の独立運用も安定してきていると言う。

「従来は親会社のシステムを使用し、グループ全体で運用していたので、独立運用に移行することに対しては不安の声がありました。また、従来のシステムでカバーしていた機能を一部マニュアル管理に移行するなど、グループ子会社にとっては業務上の負担が増えるマイナス面もあったことは否定できません。しかし、独立運用としたことで、各社の実情に沿った業務の見直しや工夫の余地が生まれ、マイナス面をカバーして概ね安定した運用ができていると思います。」

▶ 今後の展望

合併によるシナジー効果の
さらなる向上を目指す

JVCケンウッドグループでは、経営統合当時に描いたグランドデザインに基づき、予定通りに計画を進めてきた。

「今回、大きなテーマであった会計基盤についての合理化が終わりました。今後とも、旧グループ間の違いの是正を絶えず行い、シナジーをより強めていくことが当面の目標ですが、同時に、IFRS(国際財務報告基準)を巡る動向も注視しながら準備を行っていきたいと考えています。」(橋木氏)

(以上)